

旅立ちの季節

仮設住宅から市役所までは約10kmあります。朝は国道45号は大渋滞するので、裏道の農道を通って通勤しています。農道は幅員が4~5mしかなく、しかもカーブあり、上下ありの難コースです。それなのに、対向車は時速60kmぐらいのスピードで走ってきます。運転の下手な私は、車の後ろに初心者マークを付けています。もみじマークも付けたらと言われました。毎朝、2人の女子中学生が農道をこちらに向かって歩いてきます。私は彼女達の笑顔を見て、今日も一日頑張ろうと言う気持ちになります。しかし、3月下旬から彼女達と会えなくなりました。もしかしたら、中学校を卒業したのかもしれませんが。

3月は旅立ちの季節です。各校で卒業式が行われます。被災地の卒業式では、津波で亡くなった生徒達にも卒業証書が授与されます。子供さんの遺影を掲げて、卒業証書もらう両親の方達の報道に接するたび、ご両親の悲しみは生涯忘れられないのだと思います。(それに比べて、我が家の息子・娘はいつまで経っても親に心配をかけています。)

宮城県では、平成25年度に33の小中学校が廃校になります。その原因は、①前から過疎化が進んでいて子供達が減った地域、②学校の建物が被災して、再建のめどが立たない地域、③被災者が仮設住宅等に避難していて、元の家に戻れない地域、等です。廃校になる小中学校の卒業式では、同窓生たちが多数参加して、母校の校歌を大合唱します。

気仙沼市でも、高校を卒業して、大学・専門学校に進学したり、就職をするためには、市から出て行く卒業生が多いです。また、市には水産高校があり、父親を継いで漁師になるという頼もしい卒業生もいます。

次に、TPPについて書きます。TPP交渉に参加をすることは、日本の第一次産業(農業・漁業・林業等)を切り捨てることに他なりません。中央では、経済効率をいかに良くするのかという観点から発想をします。ヒト・モノ・カネ・情報・グローバルなどです。しかし、地方からの視点は、そうではありません。第一次産業は、単に産業(経済活動)だけではないのです。農村があり、漁村があり、山林があるのです。これらは日本の国土の約7割を占めます。第一次産業を切り捨てれば、これらの村や集落が荒廃してしまいます。何千年も培ってきた、風土や人々の営みが消えてしまうかもしれません。私達の故郷が無くなってしまうのです。

また、これらの国土が荒廃することは、日本の治山や治水の面からも大きな問題です。TPP交渉については、経済学者だけではなく、まちづくりや災害の専門家からも、もっと意見表明をしてもらいたいと思います。「夢破れて山河あり」という言葉があります。お隣の韓国では、「現代自動車・サムスン電子が栄えて、山河滅ぶ」という状況に

なりつつあります。日本を韓国の二の舞（工業製品を輸出しなければ、経済活動が成り立たない国）にしてはいけないと思います。

さて、漁港漁場係では、8人の派遣職員のうち、3月末で5人が交代します。係は、私とKさんを除いては、宴会大好き人間の集まりなので、この間2回、送別会をしました。

2回目回の送別会は、Sさんの実家である、大島（気仙沼から船で20分）の民宿で、バーベキューをしました。ホタテやカキを満喫しました。私は、もうホタテやカキを見るのもイヤです。

係長の話では、大震災の時、気仙沼港が火事になって、大島は津波の後で、山火事になりました。フェリーも陸に打ち上げられてしまい、船での輸送ができなくなっていました。米軍の空母が来て、物資を輸送したそうです。

残る3人（私を含めて）は、5人の仲間がいなくなって、心細いですが、係長はもっと心細そうです。（残る3人の顔ぶれを見てなのか）

1回目の送別会では、断り切れずに、二次会にスナックへ行きました。私は音痴で歌いませんが、ここでは何と言っても、森進一の「港町ブルース」で盛り上がります。「背伸びして見る海峡の 今日も汽笛が遠ざかる・・・」です。ただし、2番の歌詞の最後は「港 宮古 釜石 気仙沼」となっていますが、三陸の三大漁港は、八戸、気仙沼、石巻です。念のため。



【派遣先の自治体へ戻る職員の送別会—大島の民宿でのバーベキュー—】